

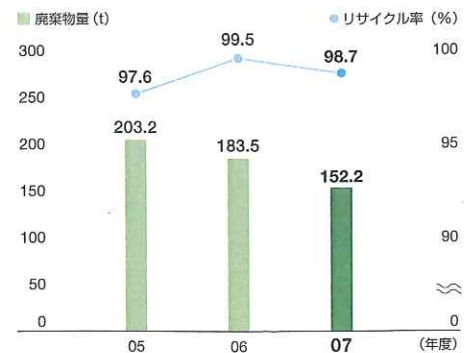
11工場でゼロ・エミッション基準を達成

工場ごとのリサイクル率を見ると、明治乳業がゼロ・エミッション達成基準としている98%を超えたのは、西春別工場、根室工場、本別工場、東北工場、守谷工場、埼玉工場、愛知工場、静岡工場、京都工場、岡山工場および広島工場の11工場で、昨年度の10工場より1工場増加しました。工場から排出される廃棄物のうち、一般廃棄物（産業廃棄物以外の廃棄物）は、法律上市町村が処分することになっているため、工場が処分先を自由に選んでリサイクル率を向上させることができません。そこで、産業廃棄物についてのみリサイクル率を算出すると、上記11工場のほかに、関東工場、関西工場および九州工場もゼロ・エミッションを達成しています。2007年度の廃棄物の処理コストは、約3億5,281円（前年比85.7%）で、昨年度より約5,900万円削減することができました。

明治乳業ビルの廃棄物削減の状況

明治乳業ビルにおいても廃棄物発生削減に努めた結果、2007年度の廃棄物量は152.2tとなり、昨年度（183.5t）と比較して83.0%になりました。また、リサイクル率もゼロ・エミッション基準をクリアしています。

本社ビルの廃棄物量とリサイクル率の推移



具体的取り組みと成果

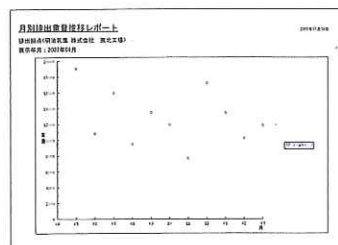
廃棄物管理システムの活用を徹底

明治乳業では、廃棄物管理のIT化および廃棄物処理に関するコンプライアンス強化を目的として構築したEmiDAS[®]1 Netを、明治乳業全工場において2007年4月から導入しています。本システムは、総合的な環境コンサルティング会社である、株式会社イーコスと共同で構築した廃棄物管理システムで、廃棄物の数量管理（物量、コスト、リサイクル率）、産業廃棄物業者との業務委託契約や許可証の管理、廃棄物ごとのフロー管理、マニフェスト管理を行うことができます。また、廃棄物に関する各種法改正^{※2}に対応する機能を本システムに追加しており、定期報告書類も自動集計により作成し、合理的な業務を実施しています。さらに、本システムを明治乳業の製造系関係会社にも導入するための準備を進め、2008年4月から稼働しました。

廃棄物データ分析システム「EmiDAS Net」

品名	数量	単位	コスト	リサイクル率	備考
...

「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を自動的に作成することができます



各工場における廃棄物重量などのデータを様々なグラフに出力することができます

※1 EmiDAS

Emission Data Analyzing System（廃棄物データ分析システム）

※2 各種法改正

廃棄物処理法に関連して「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」、食品リサイクル法に関連して「定期報告書」

4連ソフトヨーグルトカップのサイクロン式分別機導入

容器の多様化とともに、異なる素材（プラスチック、アルミ、紙）が混じり合った廃棄物が工場が発生しています。これらは、未分別のままではリサイクルすることができず、産業廃棄物として処理せざるを得ません。そこで、今回、関西工場にサイクロン式分別機を導入しました。これは、風の力を利用して素材の異なる混合廃棄物でも分別できる装置です。これにより分別されたプラスチックを、リサイクルプラスチックとして再利用することができました。



サイクロン式分別機

エコボールペンの作成

ゼブラ株式会社と協力し、工場から排出されるブルガリアヨーグルトLB81 プレーンのプラスチックキャップを利用して、リサイクル・ボールペンを作成しています。このボールペンは、2007年12月に開催されたエコ・プロダクト展において、ゼブラ社ブースで展示されました。また、2008年1月8日の産経新聞でも「リサイクル筆記具」として紹介されました。なお、このエコボールペンは、ブルガリアヨーグルトを製造している3工場（神奈川工場、東北工場、九州工場）およびチーズ館（北海道芽室町）において、来訪者に配布しています。



エコボールペン

今後の展望

1) 廃棄物の発生抑制

今後も各事業所で発生する廃棄物のより一層の削減を目指して、関連部署と連携しつつ取り組みを進めます。

2) 食品残渣の飼料化の推進

食品リサイクル法において、食品残渣のうち再生利用できないものについては、飼料化を優先的に選択することが求められています。このような国の方針に則り、明治乳業では食品残渣の飼料化にグループ企業の協力を得ながら努めています。

3) 非製造部門における3Rの推進

これまででは、比較的廃棄物の発生量が多い製造系事業所や製造系関係会社を中心に3R推進の取り組みを行ってきましたが、今後は営業部門（支社・支店・営業所）、物流部門、購買部門などの非製造部門における3Rを、それぞれ関係する部署と連携を図り進めていきます。

4) 環境法規の遵守

明治乳業および明治乳業グループの全事業所は、環境に関する法規を遵守します。